



愛媛教職員組合 (JTU えひめ)

愛媛教職員組合研修会 「えひめ冬物語」

2020年2月15日(土)、研修会「えひめ冬物語」を今治市総合福祉センターで開催しました。その内容をお知らせします。

1 愛媛教職員組合紹介DVD上映(今までの活動のダイジェスト版)

- ★春から夏にかけての教員採用試験学習会
- ★夏の研修会(水平社博物館(奈良)、国立療養所大島青松園・長島愛生園などの現地学習)
- ★秋の愛媛・父母と教職員の教育研究会(2019年度は第56回)

第47回愛媛・父母と教職員の教育研究会にて
(2010年11月13日:にぎたつ会館)

講師 福田 誠治さん(都留文科大学教授) ※現在は学長

演題「学力とはそういうものではありません
ーフィンランド教育から考えるー」



福田 誠治さん(左から4人め)を囲んで

- ★冬の研修会(合理的配慮・LGBTの学習・上映会「ある精肉店のはなし」など)
- ★教育改革アンケートの実施を踏まえての県教委・人事委員会交渉

数々の活動を積み重ねてきました!!

2 演奏:ガチャピンの相棒



迫力ある演奏の様子

「中途半端」:ガチャピン 詩・曲・演奏

♪ ハンパって言葉自体が中途半端 志半ば定年後の生き甲斐なんて お笑い草だ
そこにあるのは義理と付き合い 誰かが言ってたぜ 楽しければいいで
しょ ありがたい言葉ではあるけれど 下手っぴいのまま 負けてばかりのま
ま 才能のないことに向き合ってる それで面白いわけないだろう 他人事な
ら何とでも言えるだろう ああ 中途半端 中途半端 中途半端 何をやっても
時間だけが過ぎていく 何をやっても無駄に時間が過ぎる ♪♪

《参加者感想》

- ・心地よくエッジのきいた新曲(中途半端)やスーダラ節など、今日も楽しく聴かせていただきました。
- ・ギターを演奏して歌うことができるって、いいなと思いました。

3 実践交流（レポート発表） 日教組第 69 次教育研究全国集会より

1. ～「西成差別」を問いなおす～ 報告：越智 勇二



発表の様子

1996年「別冊フレンド」3月号で、「大阪の西成区は気の弱い人は近づかない方が無難な所」と脚注で記載され、関係団体、特に3中学校の生徒会を中心に子どもたちが抗議を行った。2019年2月14日深夜、テレビ朝日の「アメトーク！」という番組で、西成高校を中退した女性芸人が、「（西成高校は）不良の多い学校」「留置所のような学校」さらに、番組進行役が「（西成地区は）行かない方がいい地域」といった表現をし、多方面から抗議され、番組が謝罪した。その中で、番組で語られた事柄を不良生徒の対策だとしたことは、番組側の確認が足りず事実と異なっていた。西成地区についても、差別的な表現があったと認めた。日雇い労働者が多い街ではあるが、小中学生から高校生など、住民も生活しているという想像力が欠けていると思う。

2. ～南海トラフ大地震震災・伊方原発事故に備えて～ 報告：田中 正史（小学校）

“私たちは必ず南海トラフ地震を体験します。中央構造線が引き起こす地震も。被災しても、復興してきた”と希望と勇気がわく教育が必要。”

総合学習と防災・減災教育（人権・平和・いのちの視点から）

○ 福島報告

双葉中学校に戻ってきた生徒は0.6%。原発から60km離れた地域でも2014年に学校が休校になった。富岡に戻ってきた子どもたちは避難先で馴染めなかったから。7～800人の小中学生が香川県以外の全国に散り散りになった。一年のうちに2～3回転校している子どもがいる。双葉町生まれを隠すため。教員には、ひょっとすると自分のクラスにいるかもしれないという意識が必要。「避難するかしないか」、「賠償金があるかないか」で住民は分断された。安全なのかの判断は個人の判断が尊重される社会に。

○ 討論

原発製造業に関わった人に講演してもらった。講演後に「全体の場面では言うのは厳しい」ことを聞いた。「内部被曝は測れない。自然界の放射線は46億年たって安定している。福島原発の事故の放射線は8年半経っているが残っている。今、放射線の量を測っている40箇所の値は、仕事をしていた頃、手袋を四重にして厳密に仕事していた時の値と同じだ。この話をするのは同業者を裏切っている。」

○ 共同研究者

被災地と未災地の2種類しかない。未災地とは、まだ災害を受けてないだけで、そのうち災害が起こる場所。そして未災地の人には鈍感。語り継ぐとは、誰かの語りを継ぐこと。自分の体験を語ることはない。誰にでもできる。「釜石の奇跡」を釜石の子どもは「奇跡ではない。実績だ。」という。

○ 共同研究者（被災した子どもに被災の動画を見せない配慮することについて）

ケアと心の健康の違い。ケアは何かあった後に。心の健康は何か起こる前に。災害があると「頑張ろう」となる。「頑張ろう」は被災者にはしんどい。石巻西高等学校の生徒が書いた詩「潮の匂いは」に表現されている。「見せない」という配慮は大切だが、そこに心の健康のための時間を確保する。いつまでも見せないと、しんどい思いが続く。

○ 岩手



発表の様子

当時は「福島に原爆が落ちた」「海岸は空襲みたいになっている」と聞いた。混沌とした不安の中「この気持ちは何かに似ているな」と思った。戦争体験談の学習の時の気持ちに似ている。あの大きな戦争が起こっても復興できた。この地震でも何とかできるのではないかと、という思いになった。

3. 授業アイデアの紹介 報告：藤田 睦詞（小学校）

数学教育

ABCD 4種類のカードのセットを作る

A	1、2、4、5、7、11・・・95	} 平均値は同じ
B	3、8、12、17、21・・・88	
C	4、6、9、23、24、・・・101	
D	1、3、7、14、19・・・99	

「せーの」で出し合って、大きい方が勝ち



どうなるの？

Aが強い

A 1、2、4、5、7、11・・・95 → 実は、**中央値**が大きい



発表の様子

中央値が大きい。つまり、小さい数もあるが、大きめの数の枚数が一番多くなっている。

平均はあてにならないことがある

考える算数・ノートへの道。 脱！分かったつもり。 印やメモを残すことの大切さ。

《3 レポート発表の参加者感想》

- ・ 弱者をたたく構図や被災者の立場に立ち切れず、加害の側に立っていく国やひいては私たちの問題が問われていたと思いました。
- ・ 教育制度への理解や子どもの実態やどんな子どもを育てるかという教科の向こう側にあるものに関わっていこうとすることの大切さが指摘されていたと思いました。
- ・ テレビで差別的番組が繰り返し放送されている。新聞での批判と企業の謝罪は小さな扱い。マスコミの意識が低いから、この扱いで終わる。批判が弱いから同じことがくり返される。薬害エイズ問題、水俣病、新型肺炎コロナウィルス。そして原発事故被害情報を握っているのは権力側。情報を操作することで人々の意識は操作される。何が危険か、何が安全か。権力側の情報の出し方で判断が変わる。政治の関心を高める教育が必要。今の大人の政治が、未来を引き継ぐ子どもの未来を決められてしまう。まずは正しい情報公開。

4 上映会「長島愛生園：語り部証言」

人間回復の橋、心のかけ橋となれ！！

幅 30mの海に架かる邑久(おく)長島大橋でつながれた島には、邑久光明園と長島愛生園の 2つの国立療養所がある。愛生園の出発は 1931年3月27日、多磨全生園(東京都)81人を中心とする「開拓患者」が島に上陸し、光田健輔園長の経営方針を信頼して、希望に満ちて建設された療養所だったが、生活条件が悪くなると激しく改善闘争が行われた。逃亡者に対する監禁室(監房)が拡大するなど、管理が厳しくなり他の療養所と同等の人権無視が行われた。



橋ができる前は、船で收容され、收容所（回春寮）で現金（逃亡予防）などの禁止物品を取り上げられ、クレゾール液で満たされた消毒風呂の入浴を強制され、この建物の中で社会から隔絶されたとの意識を持った患者が多かった。

邑久長島大橋（人間回復の橋とも呼ばれている）

《DVD 視聴後の意見交換》

- ・ 語り部の方たちは全ての差別をなくそうと動かれています。エネルギーをもらっている。
- ・ 当事者が頑張って訴訟で勝訴を勝ち取った。自分も頑張らねばと感じた。
- ・ 国の方針が変わったのはなぜか？世論の影響もあり大臣の決断もあり、良い方向に方針転換できた。
- ・ 差別偏見だけが残るのではないかと高齢になった当事者が心配している。そうでないよう学習することが必要。連帯の重要性、困難さを考えさせられた。
- ・ 正しいことを知ることが必要。命つきるまで学習が必要。
- ・ 同和教育の研修は時間的余裕がない。自分の権利に無関心な教員に同和教育はできないのではないか。子どもの権利を踏みにじってはいけません。
- ・ 現状は人権・同和教育、学校が危うい状況があるのではないか。
- ・ 水俣病の問題は、有機水銀による中毒であり、世代が変わると毒の量が減り理解が進む。しかし、部落差別の問題に原因はない。差別が残っていることが課題。訴える必要がある。
- ・ 科学的認識の欠如が一番の問題。学ぶことが一番重要。自分自身を磨くことが重要。情報を正しく出してくれることが重要。情報を握っているのが権力者。このままでは問題。

《参加者感想》

- ・ 「ハンセン病に限らず、恐れるあまり人を傷つけていくものにならないように」という意味のことが心に残った。そして、必要なことは、あたたかい連帯であると感じた。
- ・ ハンセン病に対する差別の問題も、HIV 患者に対する差別の問題も最近の新型コロナウイルスの問題についても、根っこは同じなのではないかと思えます。
- ・ 戦前に開発され、戦後日本でも使用され患者が激減し、治る病気の一つとなったのにも関わらず、長年にわたって隔離政策を改めなかった政府関係機関、療養所の責任、それを追求しなかった国民の偏見と差別の大きさに、罪深さを思い知ります。その歴史と課題の前に、回復しきれない多くの人々の尊厳を、これからも回復していかなければならない責任が今も私たちにはあるのだろうと思いました。「終身刑と同じ」立場に追いやってしまう非人間性から、私たちが免れるための学習と運動が必要なのだと思います。

子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう！

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会（研究会）を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。

質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail jtuehime@lime.ocn.ne.jp
HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>



日教組愛媛の電話番号の QR コード
ホームページ検索

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛

